

平成23年度研究科横断型教育プログラム(Bタイプ)授業科目

テーマ	生命	研究科名	生命科学研究所／ 農学研究科		横断区分	文理横断型	開講場所	応用生命科学専攻第1 セミナー室(農学部総合 館北棟1階、N129)	
授業科目名	持続的な食(生命)の安全保障を考える				講義担当者 所属・氏名	生命科学研究所／佐藤 文彦 農学研究科／間藤 徹、宮川 恒、 奥本 裕、新山 陽子			
配当 学年	修士 博士後期	コマ 数	5コマ	開講 時期	6月25日午後1時から午後6時、 7月9日午後1時から午後4時15分		授業形態	講義・演習	
〔授業の概要・目的〕									
<p>人間活動による大気中二酸化炭素の増大等の影響による異常気象、バイオ燃料生産の拡大による食料との競合、肥料の枯渇等、食料生産のための環境は悪化する一方、より安全な農薬の開発や、遺伝子組換え作物の利用拡大等、より持続的な食料生産のための技術開発も進んでいる。こうした食(すなわち、生命)の安全保障をめぐる話題について、研究の現状と課題を講義し、どのように課題を解決していくのかという思考能力を高める。</p>									
<p>〔研究科横断型教育の概要・目的〕 単に、新しい知識や技術を研究開発するだけでなく、それらの知識、技術がどのように社会に受け入れられていくのかという視点から、幅広い視野をもち、新しい学問領域を創造できる能力をもつ大学院生を育成する。特に、教員との議論を通して、問題点とその解決策に関する思考能力、コミュニケーション能力を高めることが目的である。この目的のために、複数の教員が連続して講義・演習を行い、議論を深めていく。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<p>6月25日 第1回 我が国の食料自給状況と課題(佐藤 文彦／新山 陽子) 6月25日 第2回 ヒトの栄養、作物の栄養、土壌の栄養 -肥料学の視点-(間藤 徹) 6月25日 第3回 農業生産における化学的防御と食の安全(宮川 恒) 7月 9日 第4回 ゲノム時代の作物育種(奥本 裕) 7月 9日 第5回 遺伝子組換え技術とどう向き合うか(佐藤 文彦)</p>									
〔履修要件〕									
<p>全学共通科目「農学の新戦略-増収と環境の調和をめざして-」を履修していれば望ましいが、必ずしも必須ではない。事前に、あるべき農業のあり方について自習(考察)していることが望ましい。</p>									
〔修了証授与の要件〕									
<p>全回出席、授業への積極的な参加と、レポートの総合評価により、修了証を授与する。</p>									
〔教科書〕									
<p>適宜、プリントを配布する。</p>									
〔参考書等〕									
<p>京都大学農学部編『バイオサイエンスの新戦略』(丸善)、食料自給率の罫(朝日新聞出版)、食の安全を求めて(学術会議叢書16)</p>									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									